

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

ムラサキサギゴケ サギゴケ科

・学名 *Mazus miquelii*

・園内に自生、花期は4～6月



ビロウドツリアブ

暖かい気候も多くなり、公園内の草花も色鮮やかに葉や花を広げています。花の蜜を集めに来たハチやアブなども活発に活動する時期になりました。花の周りをホバリングしていたアブを追いかけて園内を歩いていると、群生の紫色の花たちに出会いました。ムラサキサギゴケです。

ムラサキサギゴケは田んぼのあぜ、湿った空き地などに生育する多年草です。春に直径 1.5 ～ 2cm ほどの紫色の花を次々咲かせ、群生している場所ではあたり一面が紫色の花のじゅうたんのようになります。

根元に集まったロゼット状の葉の中から長さ5～10cmのほふく状の茎を出して四方に広がり、茎の先に唇形花という、唇のような形をした花をまばらにつけます。この花の形はシソ科の植物でもよく見られる花の形です。



ムラサキサギゴケ

唇形花は上下 2 つの唇状に分かれ、上唇に沿うようにして、おしべ 4 本、めしべ 1 本があります。下唇は上唇に比べ大きく、3 つに分かれて中心に黄褐色の斑紋があります。この斑紋は花粉を媒介する虫たちを引き付ける効果があるようです。ムラサキサギゴケは白色の花をつけるものもあり、この個体の花をサギに見立ててコケのように地面を這うので、サギゴケと呼んだり、芝生のように這う事からサギシバともいわれたりしています。

ムラサキサギゴケの名の由来としては、コケのように地面に広がり、花の形がサギに似るからといわれていますが、一見あまりサギのようには見えません。それもそのはずで、「サギゴケ」はもともと江戸時代に鉢栽培されていたムラサキサギゴケの白花品につけられた名前だったからです。

花の形が似た種で「トキワハゼ」という花がありますが、以下の 3 点の違いで見分けることができます。一つ目は、枝の付き方です。ムラサキサギゴケの茎は地面を這うように伸びますが、トキワハゼは上へと成長し、這うようには成長しません。ムラサキサギゴケは、

このほふく状に広がるという性質より、田んぼのあぜの雑草を抑制する植物として検討されている例もあります。二つ目は、花の大きさです。ムラサキサギゴケは花の大きさが 1.5~2 cmであるのに対して、トキワハゼは 1~1.2 cmであり、トキワハゼの花の方が小さめであると分かります。三つ目は、花の咲く時期と生育年数です。ムラサキサギゴケは多年草で春の期間しか花が咲かないですが、トキワハゼは 1 年草で 10 月ごろまで花を咲かします。



トキワハゼ ムラサキサギゴケより立ち上がり、花が小さいのが分かる。

このように違いを持つ両者ですが、面白い特性を持つ共通点があります。それは、「柱頭運動」を行うという点です。2種のめしべの先は貝のように2つに分かれており、花を訪れた昆虫に触れられるとパクッと閉じる性質があります。これは、花粉がついたときに確実に受粉するための仕組みだそうです。仕組みとしては、内側に多くの突起を持ち、この突起が刺激を受容し電気が発生すると考えられているそうです。

春の間、私たちがぼかぼかとまどろんでいる間に、植物たちは自ら動いてまでせっせと働いているのですね。特殊な場所に生息する食虫植物などでなくても、素早く動くことが出来る植物が身近にいる事には驚かされるばかりです。



花粉をパクッ（三浦励一氏提供）

🌸 ムラサキサギゴケは [ここ](#) で見ることができます。

(参考文献)

岩瀬徹, 飯島和子, 新版 形とくらしの雑草図鑑 見分ける、身近な 300 種, 2007, 株式会社全国農村教育協会, 新村印刷株式会社

金田初代, 金田洋一郎, 季節・生息地で引ける 野草・雑草の事典 530 種, 株式会社西東社

岩槻秀明, 最新版 街でよく見かける 雑草や野草がよーくわかる本, 2014, 株式会社秀和システム

林弥栄, 野草見分けのポイント図鑑, 2014, 株式会社講談社
牧野富太郎, 原色牧野植物大図鑑, 1986, 株式会社北隆館, 凸版印刷株式会社

稲垣栄洋, 三上修, 身近な野の草 日本のこころ, 2014, 株式会社筑摩書房, 三松堂印刷株式会社

阿部武, 植物の運動に関する生理学的研究, 福島大学教育実践研究紀要第, 1986, 9, 103-107,

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000003037/1-128.pdf>

根本正之, 大塚俊之, 農耕地周辺に自生する小型植物の被覆による雑草抑制効果, 雑草研究, 1998, 43(1), 26-34, DOI: <https://doi.org/10.3719/weed.43.26>

PR 推進室, ムラサキサギゴケ(紫鷺苔)(サギゴケ科サギゴケ属), 2022, 野田市

<https://www.city.noda.chiba.jp/shisei/1016739/1016740/kusakoho/kusazukan/1017451.html>

(龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課程
栞原萌葉)